

「重症化のサインは2つ」 専門家からみた“新型コロナこれから注意すること”【岡山・香川】 5/17 岡山・香川にゅーすOHK



新型コロナの5類移行で、私たちはこれからどんなことに注意しないといけないのか？感染症に詳しい関西福祉大学の勝田吉彰教授に話を聞きました。

（関西福祉大学 勝田吉彰教授）

「いまの感染状況は、少しまた増加に転じている。感染者が増えているかということは定

点把握でも教えてくれるので、それをしっかりと見ながら行動していく必要がある」  
5類移行後もなくなるわけではない新型コロナウイルス。感染してしまった場合は、周りの人たちも重症化のサインを見逃さないことが重要です。

（関西福祉大学 勝田吉彰教授）

「重症化のサインは2つ。1つは肺炎、もう1つは脳炎。呼吸困難、爪の色が変わる顔色が青くなる、唇の色がどす黒くなる、あるいは話しかけても普段と明らかに反応が違う、そういったことがあったら救急車のサイン。そういった重症化のポイントを押さえ、リスクの高い人に接さないこと」

患者を受け入れる医療機関が増える一方で注意点もあるといいます。

（関西福祉大学 勝田吉彰教授）

「医療機関の中には、特に重症化リスクの高い人が集まっている。全く連絡せずに行くというのはそこにいる患者にとって好ましくない。確かに診てくれる医療機関の数が増えるけれど、一挙に100パーセントになるわけではない。必ず診てもらえるか確認してから行くこと」

今後の付き合い方は・・・

（関西福祉大学 勝田吉彰教授）

「高齢者、子供も含めたリスクの高い人をしっかり守る。これまで本当に不安を抱えてきた、それほど報じられない人もいるということを意識して、感染症ブロックとして考え広く気を配る。それがこれからのコロナとの付き合い方」

5類に移行したとはいえ、新型コロナは高齢者などは重症化リスクが高い感染症であることを認識し、これからも対策は各自で続けていく必要があるといえそうです。